



2021年5月10日

株式会社立花商店 生田 渉

(新) 週刊カカオニュース 43号

毎度お世話になります。カカオトレーダーの生田と申します。

今週のカカオニュースを配信させていただきます。

1. カカオ生産トップのコートジボアールが、EUの新法制定に向けてカカオ農園を捜査 (5/8)

コートジボワールの当局は、カカオベルトの中心部にある農園を2日間にわたって急遽訪問、捜査して、68人の子どもたちを救出しました。これは、主要なチョコレート原料を生産する世界最大のカカオ生産国が今年後半に導入される欧州の持続可能性に関するより厳しい法律に備えるための実験的な試みです。

アレクサンドル・コーネ検察官が金曜日に発表したところによると、警察は5月6日と7日に南西部の町Soumbreで行われた捜査で24人を逮捕しました。この作戦は、ドミニク・ワタラ大統領夫人が率いる「児童の人身売買、搾取、労働に対抗するための行動を監視する国家委員会」の資金援助を受けて実施されました。

「子どもたちは適切な環境で育てられなければなりません」とコーネ氏は語った。

EUはコートジボワール産カカオ豆の最大の輸出先であり、同国のカカオ輸出量の67%を占めています。提案されている持続可能なカカオ法は、森林を保護し、児童労働を抑制し、農家の貧困をなくすことを目的としています。

カカオ産業の統括・規制機関であるLe Conseil du Cafe-Cacaoが最近実施したカカオ生産コミュニティの調査によると、カカオコミュニティに住む18歳未満の子どもは961,002人に上ります。また、学校に通う年齢の子どものうち、71%が教育を受けていました。

西アフリカのカカオ生産国では、カカオ産業のクリーン化を求める圧力が高まっています。昨年、米国政府が主催した報告書によると、チョコレート会社が児童労働の削減を約束したにもかかわらず、報告書が発表される前の10年間に問題が悪化したことが明らかになった事例もあります。

2. COCOBOD、フェアトレード・アフリカと連携しリサーチ部門にトレーニング実施 (5/5)

ガーナ・ココア・ボード (COCOBOD) は、フェアトレード・アフリカとのパートナーシップにより、リサーチ部門の一部のスタッフを対象に、フェアトレードの基準と持続可能性に関する2日間のトレーニング・ワークショップを開催しました。

このトレーニングワークショップは、ココボドのリサーチチームの能力を高め、ココア産業における持続可能性プログラムを監視・評価することで、主要なステークホルダー（農家や政府）にとってのコストパフォーマンスを確保することを目的としています。

COCOBOD の人事部長であるランドルフ・アデイ氏は、トレーニングセミナーの開会にあたり、組織の人材を育成することは、スタッフを効果的に配置し、システムを効果的かつ効率的に機能させるために、重要であると述べた。（下記の写真がアデイ氏の挨拶の様様）



この研修では、ココアプログラムチームリーダーのアブバカー・ベンジャミン・アフル氏と、フェアトレード・アフリカの保護・アドボカシー担当のソロモン・マクバナサム氏が進行役を務めました。研修では、民主主義、透明性、説明責任、無差別、参加など、フェアトレードの原則が強調され、認証を受けた農協が遵守すべき事項が説明されました。ファシリテーターは、フェアトレードのシステムや、フェアトレード・プレミアムを農民が追加で支払い、その一部をコミュニティの開発プロジェクトに充てることができるなど、フェアトレードに伴うメリットについて説明しました。

フェアトレードでは、生活収入や賃金の問題を、様々な商品のバリューチェーンに関わるステークホルダーやアクターが尊重すべき人権問題として認識しています。前述のアフル氏は、フェアトレードが認証するのは、ライセンスド・バイイング・カンパニーではなく、ココア協同組合や農民組合であると説明しました。これは、フェアトレード認証書の所有権が農民にあることで、農民への利益を深めることができるからです。また、フェアトレードシステムの独立機関である FLOCERT は、フェアトレード基準に基づいて生産者の監査を行うことが義務付けられています。

研修では、フェアトレード認証のプロセス、トレーサビリティ、プレミアム管理、社会的コンプライアンスの基準、内部管理システムとガバナンスの基準、小規模生産者組織などが取り上げられました。また、農薬の責任ある使用、環境に関する基準、気候変動や生物多様性についても研修を行いました。

リサーチマネージャーのマイケル・エコ・アモア氏は閉会の挨拶で、研修を受け入れてくれたフェアトレード・アフリカに感謝し、研修で得たスキルや知識を日々の業務に活かしてほしいと述べました。

3. コートジボアール、カカオ産業における森林破壊対策の進展を報告 (5/5)

コートジボワールとガーナは、欧州連合 (EU) によるチョコレート原料であるカカオ豆の生産基準の厳格化に備えて、森林破壊をなくすための目標の進捗状況を報告しました。

CFI (Cocoa and Forests Initiative) と呼ばれる官民パートナーシップの報告書によると、世界のトップ生産国であるコートジボワールは人工衛星を使って森林破壊を監視し、2020年には約1,000万本の木を植え、ガーナは昨年、約22万6,000ヘクタール(558,000エーカー)の森林を回復しました。

世界の豆の約70%を供給する両国では、ココア生産が森林破壊の大きな要因となっており、コートジボワールでは1960年代以降、森林面積の約85%が失われています。昨年、カカオ・チョコレート業界を代表する世界ココア財団が発表した報告書によると、CFIが設定した森林分布の目標はまだ達成されていません。コートジボワールは、2030年までに森林面積を国土の20%まで回復させることを目指しています。また、企業は、生活を改善し、森林に侵入する動機を減らすために、農家のトレーニングにも投資しています。

コートジボワール産カカオ豆の主な輸出先であるEUは、EU域内で販売される製品が森林破壊を引き起こすリスクを排除するための法律を導入する準備を進めています。また、EUは児童労働やカカオ農家への適正な収入についても懸念しています。コートジボワールの水・森林大臣であるAlain-Richard Donwahi氏は、CFIの目標を達成するためには、カカオの生産地や森林を監視するためのデータを一元管理するシステムを開発する必要があると述べています。また、コートジボワールの水・森林大臣であるAlain-Richard Donwahi氏は、「チョコレートの消費者や市民団体から、輸出される農林物資のトレーサビリティを確保するよう求める声が高まっていることを考えると、これは重要な課題である」と述べています。

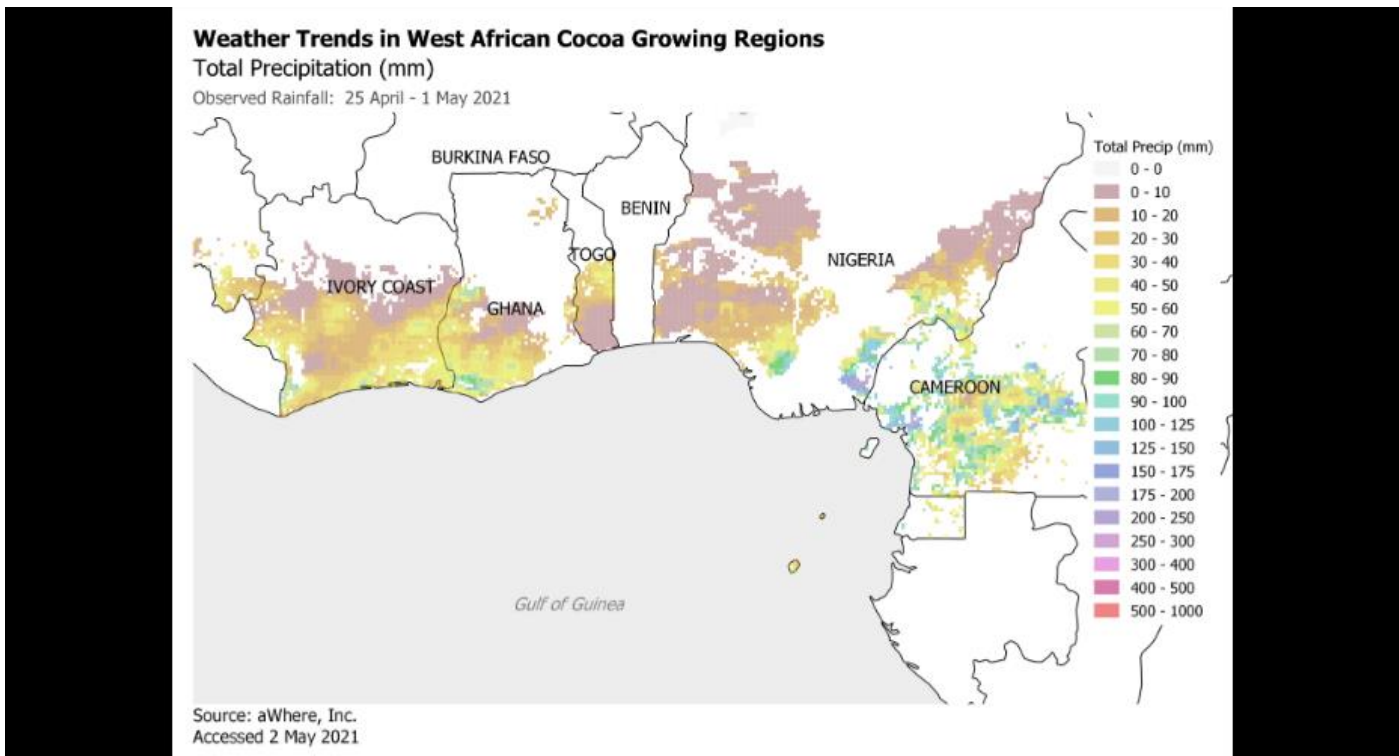
CFIは、コートジボワールとガーナの両政府と、世界を代表するカカオ・チョコレート会社35社がパートナーシップを組んで運営しています。

4. アフリカカカオ UPDATE : コートジボワール、好天に恵まれて収穫量が増加 (5/5)

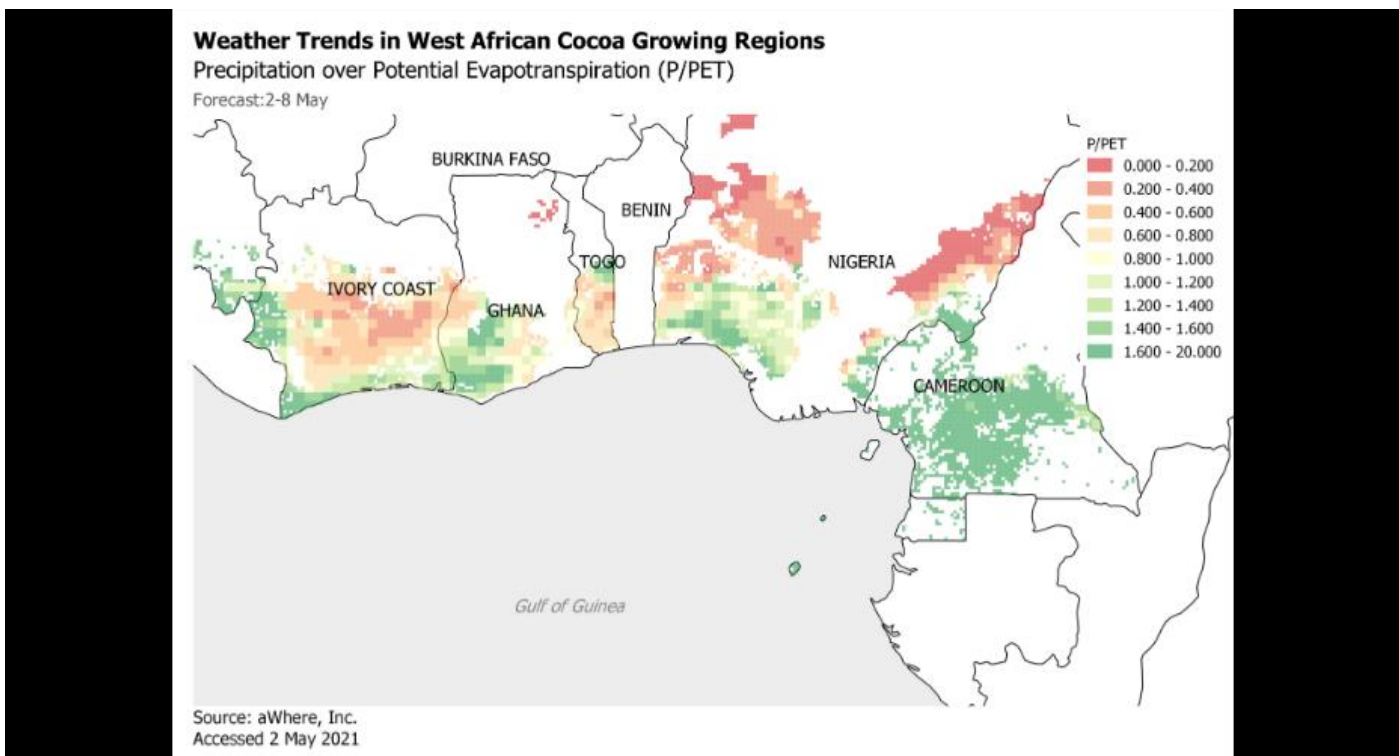
コートジボワールでは、雨と日照の組み合わせがカカオの収穫に好影響を与えており、世界最大の最大の生産国として今クロープは豊作のシーズンになりそうな見込みである。

ブルームバーグの調査によると、先月の不規則な雨によりポッドの発達が遅れたため、9月までの年2回の収穫のうち、少ない方の収穫であるミッドクロープには、雨が有益である述べている。現在収穫されているミッドクロープも引き続き豊作であれば、現在、昨年のピーク時よりも約20%低い水準で取引されている先物価格が下落する可能性がある。国のカカオ規制当局は先週、2020-21年の年間の生産量は最終的に223万トンになるだろうと発表した。カカオベルトの中心に位置する南西部の町Soubreの農家、Zongo Isidore氏は、「花でいっぱいになった木を見ると、今年は例年よりも豊作になると期待してしまう」と語った。

第2位の生産国である隣国のガーナでは、先週大きな雨が降らなかったにもかかわらず、農家は土壌が湿っていると述べた。西アフリカの他の生産国では、カメルーンの一部で乾燥しているため、農家は作物への散布を強化する機会を得ました。aWhere Inc.のデータによると、ナイジェリアでは、先週は雨が散発的に降り、今週は降雨量がまちまちになると予想されています。



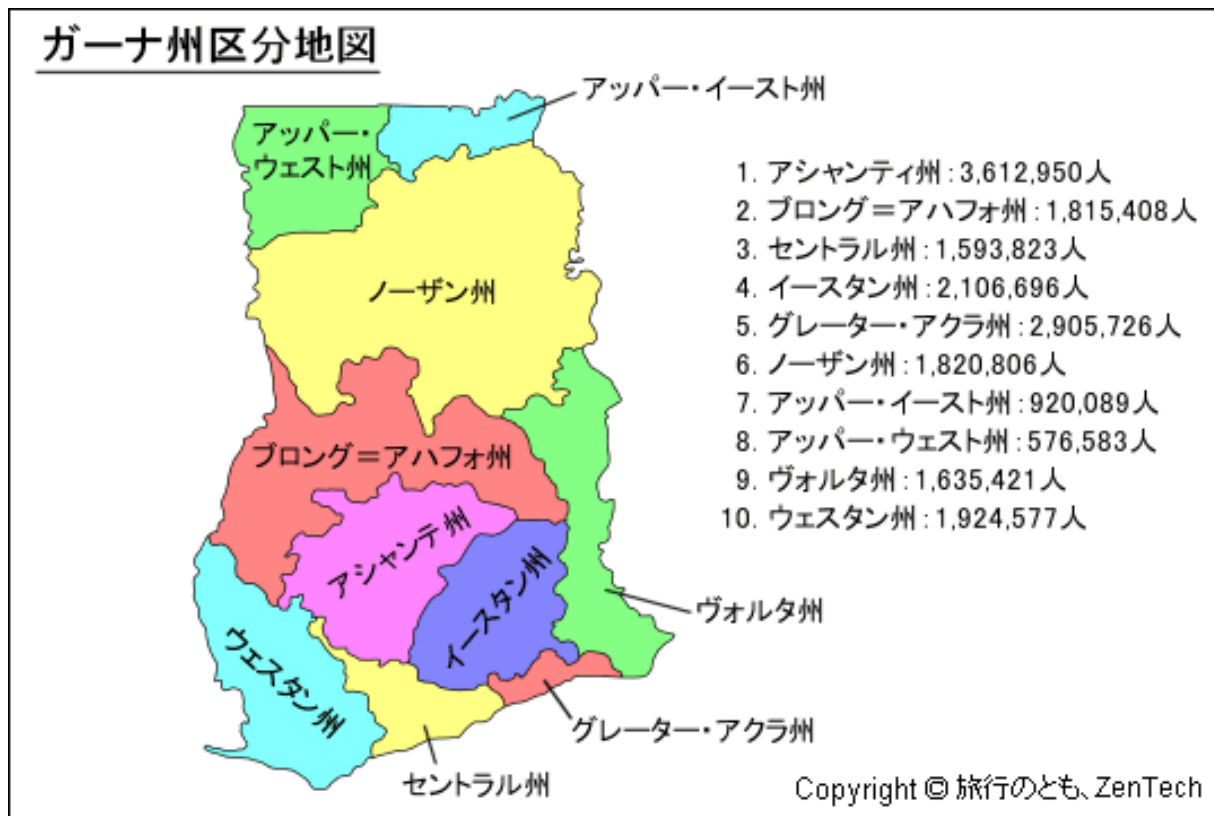
下記は、5月2日から始まる週のP/PET予報。P/PETとは、その地域の蒸発需要に対する降雨量の割合を示したものです。比率が1を下回ると期間中の水分が不足していることを示し、数値が低いほど水分が多く不足している。



5. ガーナ：カシュー栽培の導入を農家に呼びかける (5/6)

食糧農業省の作物サービス部長であるセス・オセイ・アコト氏は、ガーナ共和国の北部、特にアッパーイーストとアッパーウエスト地域の農家に対して、カシューナッツの栽培を奨励しました。この動きは、サバンナ地域の砂漠化を軽減し、気候変動が生態系に与える影響を緩和するのに役立つと述べています。

《ガーナの行政地域区分》



「気候変動が農業や環境全体に与える影響を考えると、カシューナッツはこの問題に対処するための未来を持っています。カシューナッツは回復力があり、非常に硬い木なので、気候変動の影響を最小限に抑えることができます」と述べています。また、カシューナッツの経済効果は非常に大きく、「カシューナッツは、国やバリューチェーンの関係者に多大な収入をもたらす非伝統的な輸出商品の代表格です」と述べた。

アコト氏は、ボノ地域にあるウェンチ農園を視察した際に、ガーナタイムズのインタビューに答えています。

この視察は、MofA とガーナ・ココア研究所 (CRIG) の支援を受けて、Competitive Cashew Initiative (GIZ/Com. CashewAlliance) が企画したものです。これは、カシュー・バリューチェーン推進のための第10回マスター・トレーニング・プログラムの第2セッションで、約22名の研修生の能力を高めるためのものです。参加者は、接ぎ木や害虫の見分け方、虫の駆除方法など、カシューナッツ生産のあらゆる側面を学びました。

このプログラムは、アフリカ産カシューのバリューチェーンにおける理論的知識と実践的スキルを高めることを目的としています。樹木作物開発局 (TCDA) の運用開始が遅れていることについて、アコト氏は、作業開始に向けてすべての準備が整っていたにもかかわらず、いくつかの課題によって遅れが生じていると述べました。しかし、アコト氏は、農民が苦勞して得た利益を得られるように、このセクターを規制するために TCDA はすぐに離陸すると断言しました。

TCDA は、カシュー、シア、マンゴー、ココナッツ、ゴム、アブラヤシの 6 種類の作物を規制する機関として、昨年 9 月にナナ・アド・ダンクワ・アクフォ＝アド大統領によって発足しました。

6. スターバックス、“Ethically Sourced”と評されたココア、ホットチョコレートへの表示で提訴を受ける (5/8)

カリフォルニア州の連邦裁判所の判決によると、マーズ社とクエーカー・オーツ社が同様の請求を棄却したにもかかわらず、スターバックス社は、児童奴隷労働を使用しているにもかかわらずホットチョコレートを「倫理的に調達された」と欺瞞的に広告しているとの請求に直面しなければならない。

カリフォルニア州中央地区連邦地方裁判所の John W. Holcomb 判事が木曜日に下した判決では、3 社のラベルに記載されている特定の文言が異なる結果をもたらしました。

請求を申し立てたロリ・マイヤーズ氏は、スターバックスの「ホットチョコレート」、Mars Wrigley Confectionery US LLC の「Dove Dark Chocolate」、Quaker Oats Co. の「Chocolate Chip Chewy Bars」が、児童奴隷労働なしで生産されているように描かれていると訴えました。彼女の最初の訴えは却下されましたが、彼女は再提訴しました。

消費者は、非人道的な環境下で子供たちによって生産されていないチョコレートをますます求めるようになっており、マイヤーズは新たな申し立てで主張しています。カカオのサプライチェーンでは、小規模農家が中間業者に販売し、中間業者が豆を組み合わせて最終的にメーカーに販売するため、追跡が困難です。

マイヤーズは、スターバックスのホットチョコレートを「倫理的に調達されたカカオを使用」と表現したラベルに異議を唱えています。マイヤーズは、スターバックスのホットチョコレートが「倫理的に調達されたカカオを使用」と表示されていることを問題視しています。裁判所は、マイヤーズのコーヒーチェーン店に対する初回の主張は、棄却に耐えうるものであるとしていた。

しかし、マイヤーズ氏は、児童奴隷制度がチョコレート取引に蔓延しており、児童奴隷の労働力を使わずにチョコレートを製造することは困難または不可能であり、合理的な消費者はこれらの懸念に敏感であると主張しています。また、消費者は倫理的に製造されたチョコレートと児童奴隷への依存を相互に排他的に考えるだろうと主張しているとのことでした。

再提訴に対しての、2 回目の判決では、マーズ社とクエーカーオーツ社に対するカリフォルニア州消費者保護法に基づく請求を棄却しましたが、スターバックス社に対しては提訴を承諾した。

マイヤーズは、マーズ社が「農場から工場まで追跡可能なカカオ」を購入しているというラベル表示に異議を唱え、同社のチョコレートのうち追跡可能なものは 24% しかないと主張しました。裁判所の返答は「Myers 氏にとって残念なことに、マーズ社の声明は慎重に語られている」と解釈を示した。マーズ社は「トレーサブルな」豆を購入していると主張しているのであって、トレーサブルな豆だけを購入しているわけではありません。このラベルの記述は技術的には正しいと裁判所は述べている。マーズはトレーサブルでない豆も購入しているかもしれないが、購入していることを断定的に偽ってはいないと裁判所は述べている。

また、クエーカー・オーツ社に対しては、チョコレートチップ・チューイーバーにおいて、「Cocoa Horizons を通じて持続可能な方法で調達されたカカオをサポートしている」という断定的な虚偽表示を行ったと主張しています。Myers 氏が認めたように、Quaker Oats 社は Cocoa Horizons 社と提携しており、この支援

団体は持続可能で倫理的な活動を推進しているため、この表示は誤解を招くものではないと裁判所は述べています。

7. ファンド勢のニューヨーク・カカオ先物は純売り越しポジションへ転じる (5/8)

ニューヨークのカカオ先物市場において、ヘッジファンド等投機筋 (Managed Money) は今週、売りポジションの総量が、買いポジションの総量を 902 ロット上回り、純売り越しポジションとなったことが、ICE 米国先物取引所の発表しているデータから判明した。毎週発表されるこのポジションレポートの取引数字は毎週火曜日まで、(今週で言えば、5月4日)の取引が含まれている。

- 1週前の段階では、純買い越し数量 (=総買い数量-総売り数量) が 12,543 ロットあった。
- 純売り越し数量は、過去6か月で一番弱気=売りこされている状態になっている。
- 総買い数量は今週 2,747 ロット減少し、36,803 ロットになった。総買い数量は過去5か月で最も低い。
- 売りポジションの総量は5月4日までで、前週より 10,698 ロット上昇して、37,705 ロットとなった。。売りポジションの総数は過去9か月で最も高い数字。

8. ファンド勢のロンドンカカオ先物は純売り越しポジションは過去9か月で最大=弱気に(5/8)

ロンドンカカオ先物市場において、ヘッジファンド等投機筋 (Managed Money) は今週、純売り越しポジションが 4991 ロット増えて、9,435 ロットとなったことが、ICE 欧州先物取引所の発表しているデータから判明した。毎週発表されるこのポジションレポートの取引数字は毎週火曜日まで、(今週で言えば、5月4日)の取引が含まれている。

- 先週の段階では、純買いポジションが 7,534 ロットとなっていた。(=買い総数-売り総数)
- 純売りポジションは過去9か月で最も弱気の数字。
- 買いポジションの総量は5月4日までで、前週より 730 ロット減って、10,982 ロットとなり、過去3年で最も低い数字
- 売りポジションの総量は5月4日までで、前週より 4,261 ロット増加して、20,417 ロットとなった。
- 売りポジションの総量は過去8か月で最も多い数字。

9. 新商品情報：「カカオ・トレース」のチョコを100%使用 美味しく社会貢献できる生ガトーショコラ

先月21日、Nama Gateau Au Chocolat (所在地：神奈川県小田原市、代表：柳下 龍介) は、「カカオ・トレース」のチョコレートを100%使用した“生ガトーショコラ”の先行販売を CAMPFIRE にて開始した。5つ星ホテルを渡り歩いてきた一流料理人、増井睦が商品の開発・製作を担当しており、高品質なベルギー産チョコレートと北海道バターを惜しみなく使用することで、極上の口溶けと特濃厚な味わいが実現した。



「カカオ・トレース」は、ベルギーの大手原料メーカーであるピュラトス社が2014年からスタートした取り組みであり、カカオ農家の貧困問題、児童労働問題、栽培技術不足などの課題解決に向け包括的にサポートを行っている。「カカオ・トレース」のチョコレート1kgの購入に対して10セントドルがカカオ農家やそのコミュニティに還元される仕組みとなっているため、消費者は生ガトーショコラを食べるという行為を通じて社会貢献することができる。



まさに「美味しさ」と「社会貢献」を掛け合わせた『幸せの生ガトーショコラ』と言える。クラウドファンディングの期間は2021年4月21日～6月10日となっている。

* CAMPFIRE プロジェクト URL

<https://camp-fire.jp/projects/408015/preview?token=3mcimnpl>

* 「カカオ・トレース」特設ウェブサイト

<http://cacaotrace.com/ja>

*商品説明および、写真は下記プレリリースより

<https://www.value-press.com/pressrelease/269812>

上記写真及び情報ソース：<https://www.ssnp.co.jp/news/beverage/2021/04/2021-0409-1517-15.html>

週刊カカオニュースの配信の削除、ご依頼については、下記アドレスまでご連絡願います。

株式会社 立花商店 生田 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp

*本ニュースの相場情報は、客観的なデータの報告及び、著者の主観的な意見を述べるものであり、一切の取引の推奨を目的としたものではございません。カカオ先物、及び現物の取引におかれましては各個人様、法人様のご判断に基づいて行って頂きますようお願い致します。